

## 人は変えられなくてもツールは変えられる！-ツールが変われば人は変わる！-

チーム「ラテ介ラテ子」

### <事実>

全体で出てきた問題点=情報共有不足

- 縦割りの業務
- 隣の人が何をしているか分からない状態
- 部署間でのコミュニケーション不足
- マニュアル不足
- PCスキルの不足



### <情報共有不足の背景・原因>

**When?**・・・日常業務

**Where?**・・・現場（自分と相手）

**Who?**・・・職員

**What?**・・・諸々の情報（業務内容、進捗状況など）

そもそも、どうしてこのような状況が発生しているか？

**Why?**・・・情報発信不足

情報発信ツール自体がない。

ツールがあっても活用していない（浸透していない）

発信すべきという認識がない

では、どのように解決することができるか？

**How?**・・・自分から他へ発信していく **実用的な仕組み**が必要

### <考察>

初日の講義で出た「職場においてできること・できないこと」のうち「他人を変えることはできない」という点に着目し、ツールの変化により他人の意識改革が可能であるか模索した。

初めに各メンバーが出し合った問題点を、大まかに2つに分類した。

人（変えられないもの）に起因するもの

- 縦割り（他部署の人が何をしているか分からない状態）
- 業務中の「シーン・・・（静けさ）」（隣の人が何をしているか分からない状態）
- 無駄な残業
- ジョブローテーション（過剰、不足による弊害）
- 部署間でのコミュニケーション不足

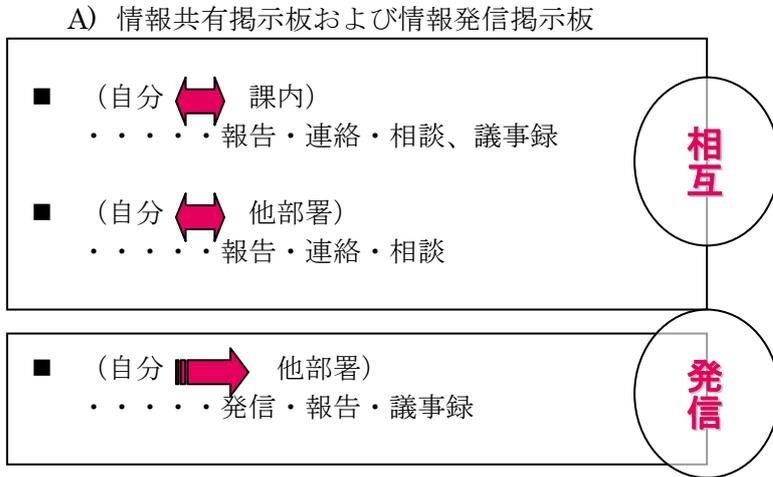
ツール（変えられるもの）に起因するもの

- マニュアル不足
- PCスキルの不足

■ 業務内容の共有不足

ツール（変えられるもの）に起因する問題点を解決する方法として、具体的に以下の内容が挙げられた。

I. パソコンを活用した情報発信ツール



- B) 課全体のスケジュール管理表  
 ⇒課内で業務内容・スケジュールを共有

(イメージ図)

		入学課	一般入試	特別入試	その他(庶務等)
7月7日	火	部会議	人材派遣会社打ち合わせ	編入要項リリース	
7月8日	水		主査会議		調達説明会
7月9日	木	副学部長会議	主査会議	学部担当者打ち合わせ	10万以上 出金承認締切日
7月10日	金	業務会議		電算会社打ち合わせ	出金承認締め切り日
7月11日	土			海外推薦面接	
7月12日	日				

## <課題>

◎ツールとして使われる仕組みづくりが必要

どのようなツールなら使うようになるか意見を出し合い、「周知・習慣化・義務化されたもの」であればツールとして十分に機能するという結論が出た。

また、それに加え「便利であること」「手軽であること」「有効なツールと実感できること」も必要な条件とされた。

ここではいかにツールを使うかをテーマとし、「使えなかったら取り残される」環境を意図的に作り出すことによって情報共有不足を解消したいと考える。

では、「使えなかったら取り残される」環境を作るためには？

- 事前の周知・徹底
- 学内システム変更の際に、情報共有ツールも盛り込む

例) 地上デジタルテレビ放送への移行

⇒一定の移行期間を設け、段階的に新しいものを使わざるを得ない状況をつくる

このように、状況に合わせて変えていけることがツールの利点であると考えられる。

## <残された課題・留意点>

- 「発信」することの責任
- セキュリティの問題（情報の氾濫）
- 誰にとっても使いやすい仕組み
- マニュアル整備

さらに・・・

パソコンに頼りすぎない、対面でのコミュニケーションも必要！！

## II. パソコンに頼らないツールの例

- A)課の業務日誌（課員が交代で記入） ☞業務の“可視化”
- B)チューター制（新人に他部署の先輩をチューターとして付ける）  
☞他部署の問題点にも目を向ける
- C)朝礼での業務報告 ☞言ったことへの責任・言うために何かを見つける努力
- D)昼食を他部署の人と食べる
- E)飲みニケーション

☞情報交換



## <結論>

ツール（変えられるもの）を変えれば・・・

- 縦割り（隣の人が何をしているか分からない状態）
  - 無駄な残業
  - 業務中の「シーン・・・」
  - ジョブローテーション（過剰、不足による弊害）
  - 部署間でのコミュニケーション不足
- 2種類のツールを併用することにより解消していくことができる

人（変えられないもの）は変わる（変えていける）